

■流域委員会への意見

本日（8月30日）まで5回にわたって朝日新聞滋賀版に連載された宮本博司様の「なぜ、どうしてもダムなのか」を強い関心を持って読ませていただきました。

事実を踏まえ理論的にも大変説得力があり、国土交通省がダム建設にこだわるのがいかに理不尽であるのかが、よく分かります。私自身もこれまで近畿地方整備局と滋賀県が意見聴取をした際に、インターネットから投稿して、ダム建設反対の意見を述べました。

流域委員会の方々が多大の時間と労力をかけて出された結論を顧みようとしない姿勢には、これが民主国家のやることかと非常な憤りを禁じえません。

諫早の水門など、官僚はいったん決めたことを変えるのは自分のメンツにかかわると強く思うようで、いかに説得的・合理的反対意見があろうとも、絶対に変えようとしないのは非常に残念です。そして多大の国家予算を浪費し子孫にその付けを支払わせようとするなど、断じて許せません。

宮本様をはじめ委員の方々も意見を発表することで有形無形のいろいろな圧力・圧迫があることと存じます。その中で大きな勇気を示して完全と自己の信念を貫こうとされる姿勢に、感動を覚えます。ささやかながら私も少しでも支援をさせていただきたく思っています。

これまでのご努力にお礼申し上げますとともに、今後ともその努力を持続されますようお願い申し上げます。

なお、他のメディアの対応が分かりませんが、朝日新聞滋賀版の記事をもっと多くの方に伝える何らかの方法がないものでしょうか。滋賀県在住の読者が読むだけでは、あまりにももったいない、残念だと存じます。